

2005年度 環境活動レポート

(2005.03.01~2006.02.28)

【エコアクション21認証】

認証・登録日:2005.11.1

有効期限:2007.10.31

環境活動レポート

作成者・作成日:郡 司 2006.5.19

承認者・承認日:佐倉井 2006.5.31

公開日:2006.6.1

会社名

株式会社 ブリッジ・メタウェア

所在地

〒221-0835

横浜市神奈川区鶴屋町2-23-5銀洋第2ビル2F

代表者

代表取締役 佐倉井 章

連絡先

TEL:045-313-2129 FAX:045-313-2179

目次

No	主題/副題	P	
I.	会社概要	1) 会社概要 2) 事業活動の特徴と環境負荷概要	03
II.	環境方針		04
III.	社内環境コミュニケーション		05
IV.	05年度の環境目標とその実績		
1.	目標設定と調査していない負荷項目について	1) 目標設定について 2) 調査していない負荷項目について	06
2.	05年度の環境目標とその実績	1) 中期目標とその実績 2) 単年度目標とその実績	07
3.	項目別負荷実績	3.1 Co2排出量	08
3.	項目別負荷実績	3.2 電力使用量	09
3.	項目別負荷実績	3.3 ガソリン使用量	10
3.	項目別負荷実績	3.4 廃棄物総排出量	11
V.	主要な環境活動と計画の内容		
1.	主要な環境活動計画の概要	1 主要な環境活動計画の概要	12
2.	環境活動計画の内容	2.1 節電対策	
2.	環境活動計画の内容	2.2 ゴミの分別 2.3 紙類の溶解処理依頼	13
2.	環境活動計画の内容	2.4 OA機器のリサイクル廃棄依頼 2.5 エコ商品の購入	14
2.	環境活動計画の内容	2.6 エコ推奨チェックリスト 2.7 緊急事態の対応	15
VI.	環境保全活動の取組結果の評価		16
VII.	環境関連法規への違反・訴訟の有無		17
VIII.	06年度の環境目標	1) 中期目標について 2) 単年度目標について	18
IX.	06年度の環境活動計画		19

I. 会社概要

1) 会社概要

表 I 会社概要

社名	株式会社 ブリッジ・メタウェア
事業所	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-23-5 銀洋第2ビル2F
環境管理責任者	代表取締役 佐倉井 章
連絡先	TEL 045-(313)-2129 FAX 045-(313)-2179 e-mail bm-ea21@bridgemw.co.jp URL http://www.bridgemw.co.jp/
事業内容	ソフトウェア開発・ネットワーク技術支援・Web開発・ ホスティングサービス等

2) 事業活動の特徴と環境負荷概要

2-1) 事業活動と電力使用

インターネット接続環境を維持するためのサーバ群(ホスティングサービス用含む)は、24時間連続稼働を行っています。また、それらサーバ群の環境温度調整のために、温調設備の稼働も行っています。温調設備稼働による消費電力量は、「動力用」として、その他の消費電力量(「電灯用」と別けて計測されています。「動力用」の電力使用量は、温調設備を冷房用としてのみ使用するため夏場をピークとする季節変動があります。「電灯用」の電力使用は、照明電灯及び事務機器(コンピュータを含む)によるものとなります。

2-2) 事業活動と電力使用以外の環境負荷

当社の商品は、無形であるソフトウェアプログラムやシステムサービスの提供です。このため、商品製造過程での化学物質の排出等はありません。また、ガソリンの使用は、通勤経路内部分移動・事務機器一時移動・緊急時や打合せ移動用として借上げている車の利用によるもので、車の用途自体が商品の配達や巡回営業活動によるものではないため、事業活動規模に比例する部分は、あまりありません。

II. 環境方針

株式会社 ブリッジ・メタウェアは、「問題、ニーズから本質的な解決、サービスを「メタウェア」として創造提供すること。」という企業理念と行動指針をもとに、地球環境の保全に関して自主的かつ積極的な取り組みを行います。

- 1.環境管理体制** 環境担当役員を代表取締役とし、環境管理の責任と権限を明確にして、環境保全活動を推進します。
- 2.法規制の遵守** 国や地方自治体等の環境規制を遵守するとともに、自主管理基準を定めて、環境保全に努めます。
- 3.環境負荷の低減** 事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の分別、削減の目標設定と定期的見直しを行ない、継続的な管理と改善に努めます。

1)省エネルギー

- 使用電力の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。コンピュータサーバ等の動作維持に必要な電力消費量は、その動作維持条件(台数、室温、湿度など)の見直し、照明を含めた節電や使用機器のエネルギー効率改善を含めた対策で取り組みます。

2)省資源

- 事務用品等の購入明細の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
エコマーク商品の優先購入、特にパソコンの購入においてはPCリサイクル等のリサイクル対応商品を対象とします。

3)廃棄物の分別、削減

- 規定した分別廃棄の実施と廃棄時の減容量化に取り組みます。
- 分別種類毎に廃棄量(概算の容量及び重量)の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
- 情報セキュリティ対策
情報資産(個人情報を含む)の廃棄に関しては管理廃棄の対象とし、社内規程類に従い、裁断、破碎など必要な処置を加えると同時に、選定した廃棄委託先に処理を委託して廃棄情報等からの情報漏洩防止に取り組みます。

- 4.教育訓練** 毎月1回の定例会議での環境情報の提供により、環境保全に向けた全従業員の意識高揚を図ります。
- 5.社会との共生** 事業活動の場の提供元との環境保全活動に協力します。
- 6.環境基本方針の公開** このBM-EA21環境基本方針は、社内外に公開します。

株)ブリッジ・メタウェア 代表取締役 佐倉井 章 2005/04/02 改訂 V1.1
2004/07/12 初版 V1.0
2004/06/30 宣言

Ⅲ. 社内環境コミュニケーション

当社環境方針にて、「毎月1回の定例会議での環境情報の提供により、環境保全に向けた全従業員の意識高揚を図る」としています。この定例会議時に、資料として月毎の環境活動報告書である「月次レポート」を作成し、EA21の取り組みに対するチェックを行っています。当社での主な環境活動は、一ヶ月周期のPDCAサイクル(下図)であり、かつ「月次レポート」を中心とした「社内環境コミュニケーション」です。その年間のまとめが「環境活動レポート」となります。

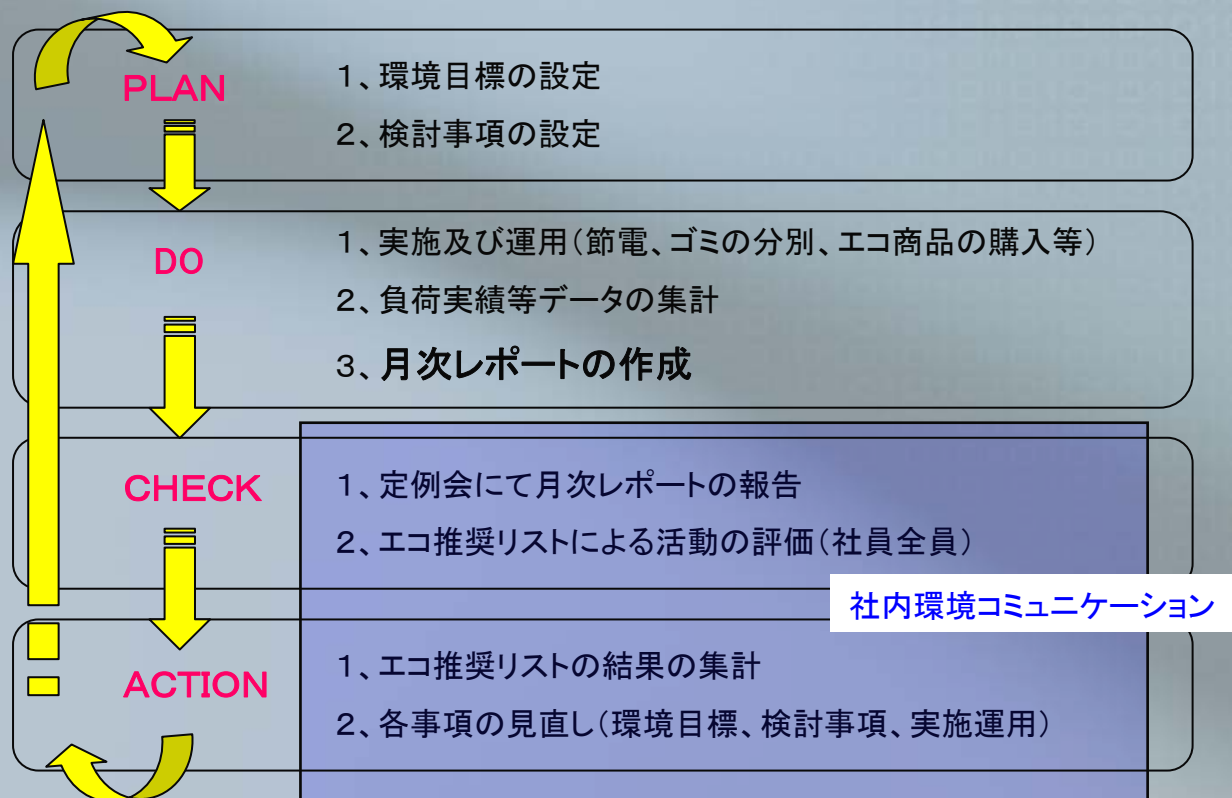


図 Ⅲ-1 一ヶ月周期のPDCAサイクル

IV. 05年度環境目標とその実績

1. 目標設定と調査していない負荷項目について

1) 目標設定について

1-1) 中期目標 ■売上当りの二酸化炭素排出量の継続低減(~1割低減)

二酸化炭素の排出量の増加は、地球温暖化や酸性雨の原因となり、地球規模の環境問題となっています。企業も、環境負荷の発生を抑制しながら事業の継続的發展を図ることが必要です。このため、事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を低減することを環境活動の目的とし、各年度とも事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を前年度より低減(~1割低減)して継続していくことを目標とします。事業活動規模の算定の要素には、売上、事務所面積、人員数、設備等がありますが、継続して各年度の二酸化炭素排出量の事業活動実績効率として評価するために、売上を事業活動規模の基準とします。

1-2) 単年度目標 ■各環境負荷の計画管理目標(前年度実績×事業規模比×0.9)による増加抑制・低減

二酸化炭素排出量の具体的な低減には、省エネルギー、省資源、廃棄物削減を心がけ、事業活動での各環境負担を減らすことが必要になります。それぞれの環境負荷項目は、前述の事業活動規模の算定の要素から各年度で計画管理目標を設定し、最終的に事業活動規模(売上)当りの二酸化炭素排出量を削減できるよう活動を行います。各年度の計画管理目標は、変化する事業活動規模比を考慮して量の増加がある場合、その増加量の1割削減の量をもって管理目標とします。

2) 調査していない負荷項目について

総物資投入量

当項目は「原材料・部品・包装材等の消費」という活動に伴う負荷チェック項目ですが、当社の「物資投入量」は上記3点に含まれないと考えるためです。

水資源投入量

「上水、工事用水、地下水等」を製品生産活動に使用していないためです。

総排水量

排水をビル全体で管理しているため、会社単体での排水量の把握が困難なためです。

化学物質排出量

製品生産の過程で化学物質の排出がないためです。

総製品生産量

当項目は「製品の開発・設計等における環境配慮」の啓発を目的とした項目ですが、当社の開発製品は無形であり、環境配慮に事実上関われないためです。

以上の理由により、上記5項目の環境負荷は測定していません。

IV. 05年度環境目標とその実績

2. 05年度環境目標とその実績

1) 中期目標とその実績

■売上当りの二酸化炭素排出量の継続低減(～1割低減)

表 IV-2-1 売上当りの二酸化炭素排出量(t-co2/億円)

項目	04年度	05年度
Co2(t-co2/億円)	18.3	17.4
目標(t-co2/億円)	-	16.5～18.3
前年度比(%)	-	95%
評価	-	△

2) 単年度目標とその実績

■各環境負荷の計画管理目標(前年度実績x事業規模比x0.9)による増加抑制・低減

表 IV-2-2 各環境負荷の計画管理目標とその実績

環境負荷項目	04年度	05年度						
	実績	事業活動規模前年比	削減率	計画管理目標	実績	目標	計画実績比%	評価
Co2	16.28 (t-co2)	1.27 売上計画比X面積比	1.0	20.73 (t-co2)	19.98 (t-co2)	<20.73 (t-co2)	96%	△
電力	320.88 (KMJ)	1.16 売上計画比	0.9	335.00 (KMJ)	390.24 (KMJ)	<335.00 (KMJ)	116%	×
ガソリン	34.45 (KMJ)	1.80 車台数比	0.9	55.81 (KMJ)	46.91 (KMJ)	<55.81 (KMJ)	84%	○
廃棄物	893.65 (Kg)	産廃以外: 人員計画比(1.31x0.9) +産廃: 移転時廃棄計画		850.00 (Kg)	843.00 (Kg)	<850.00 (Kg)	99%	△

IV. 05年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3.1 Co2排出量

05年度のCo2排出量は、19,976Kg-co2の実績となりました。

このCo2排出量は、前年04年度実績(16,275Kg-co2)x事業活動規模(売上計画比:1.16)x0.9(増分1割削減)に事務所拡張移転による事務所面積増加率(1.22)を乗じた管理目標:20,729Kg-co2の96%に相当し、04年度実績に対し123%となりました。

Co2排出量換算の内訳である環境負荷とその構成比率は、電力(75%)・ガソリン(16%)・廃棄物(9%)となり04年度時とほぼ同様でした。

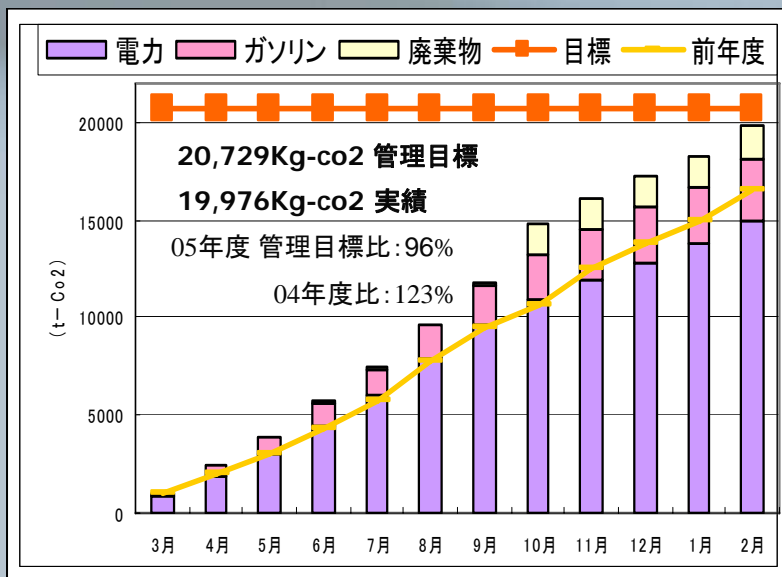


図 IV-3-1-1 05年度月別CO2排出累積量(Kg-co2)

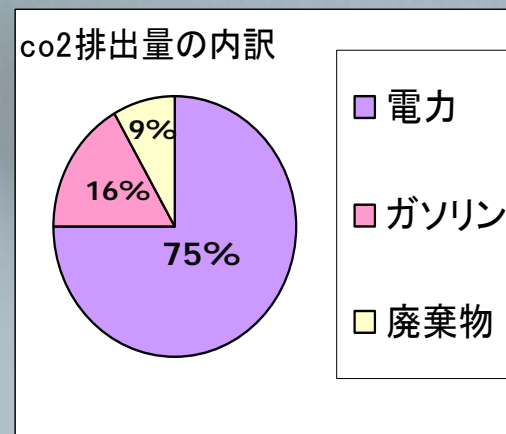


図 IV-3-1-2 05年度CO2排出累積量(t-co2)内訳

IV. 05年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3.2 電力使用量

05年度の電力使用量は、39,699Kwh の実績となりました。

この電力使用量は、前年04年度実績(32,642Kwh)x事業活動規模(売上計画比:1.16)x0.9(増分1割削減)で計画した管理目標:34,079Kwhの116%に相当し、04年度実績に対し122%となりました。

使用電力の内訳である電灯と動力の構成比率は、電灯(69%)・動力(31%)となり04年度とほぼ同様でした。

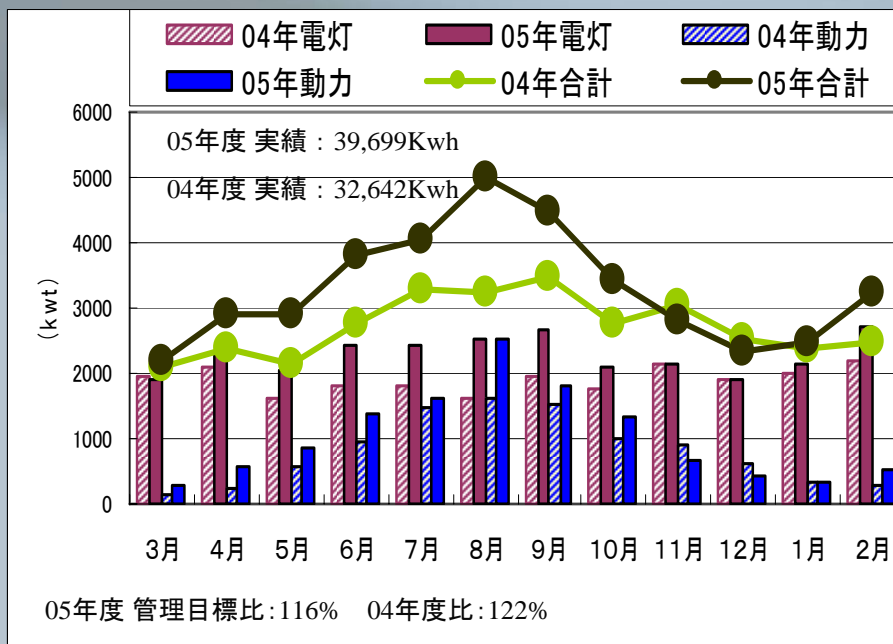


図 IV-3-2-1 05年度(04年度)月別電力使用量(Kwh)

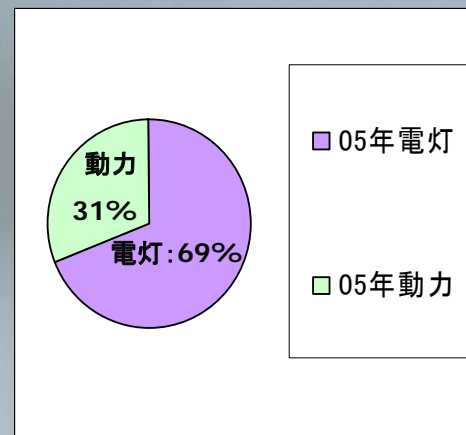


図 IV-3-2-2 05年度電力内訳(電灯、動力)

IV. 05年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3.3 ガソリン使用量

05年度のガソリン使用量は、1,355L の実績となりました。

このガソリン使用量は、前年04年度実績(996L) \times 借上げ車台数計上比(1.8) \times 0.9(増分1割削減)で

計画した管理目標：1,613Lの84%に相当し、04年度実績の136%となりました。

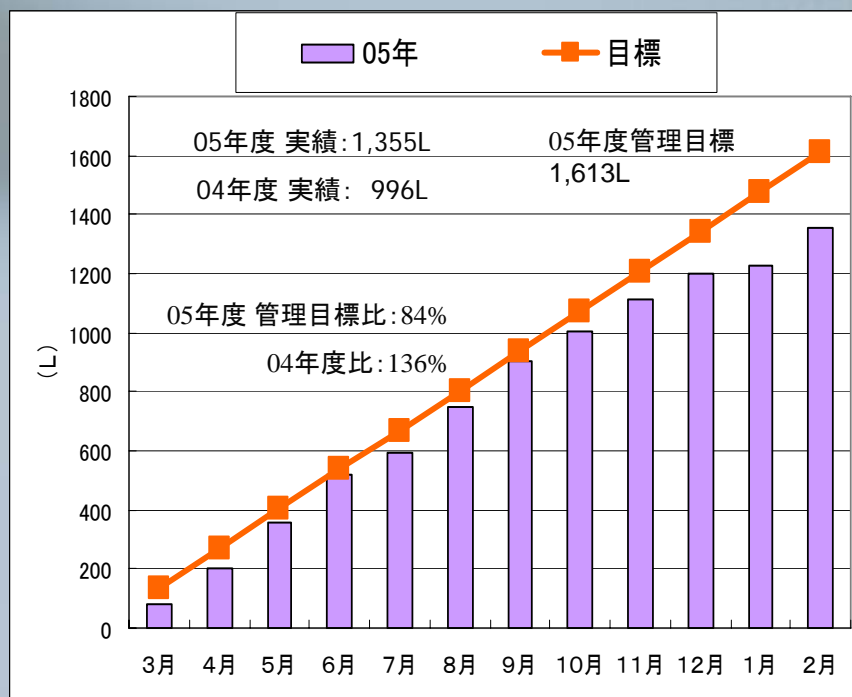


図 IV-3-3 05年度月別ガソリン使用量(L)

IV. 05年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3.4 廃棄物総排出量

05年度の廃棄物総排出量は、843Kgの実績となりました。この廃棄物総排出量は、前年04年度実績(893.65Kgから産業廃棄物関係を除いた360Kg相当)x事業活動規模(人員計画比1.31)x0.9(増分1割削減)で計画した424Kgに産業廃棄物の移転時廃棄計画分(x2)を考慮して設定した管理目標:850Kgの99%に相当し、04年度実績に対し94%となりました。廃棄物の内訳は、事務所移転時に産業廃棄物が71%排出されていますが、それを除いた重量内の各項目割合は、94%が単純焼却、6%が再生利用可能な廃棄物となりました。

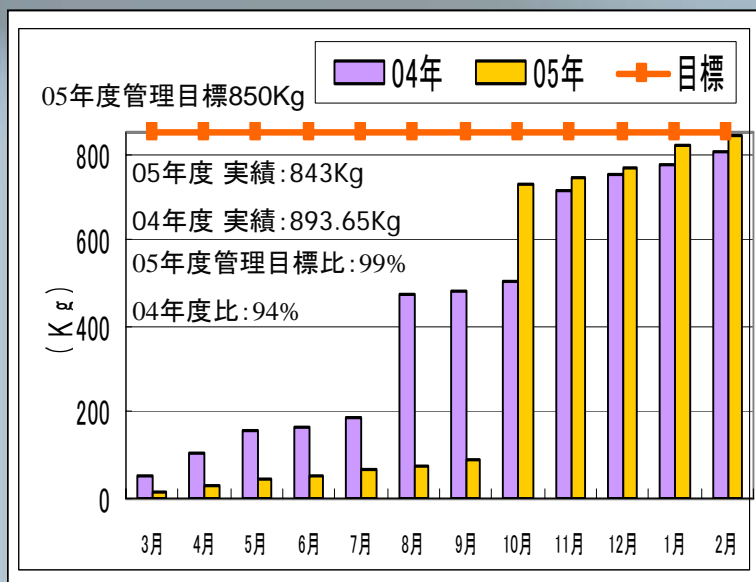


図 IV-3-4 05年度(04年度)月別廃棄物総排出量(Kg)

表 IV-3-4 05年度廃棄物総排出量(Kg)内訳

種類	重量(Kg)	割合	
産業廃棄物	OA機器等	334	40%
	オフィス家具	50	6%
	一般家具	210	25%
	不要書類・雑誌	0	0%
	その他	4	0%
小計重量	598	71%	主に10月の事務所移転時に排出
単純焼却	紙	109.5	13%
	厨芥	60	7%
	ペットボトル	8.5	1%
	他プラスチック類	52	6%
小計重量	230	27%	産業廃棄物を除く重量内の割合
再生利用	カン	6	1%
	ビン	9	1%
小計重量	15	2%	
合計重量	843		

V. 主要な環境活動計画の内容

1. 主要な環境活動計画の概要 2 環境活動計画の内容

1. 主要な環境活動計画の概要

表 V-1 主要な環境活動計画の概要

No	環境活動計画	概要
1	節電対策	作業照度に問題が生じない範囲で、使用電灯本数を削減(30本→23本)。
2	ゴミの分別	5種類のゴミ箱を設置、新聞・雑誌及びダンボールは別回収。
3	紙類の溶解処理依頼	書類等をシュレッダーゴミとせず、そのまま溶解処理依頼し、ダンボールに再生。
4	OA機器のリサイクル廃棄依頼	OA機器廃棄品リサイクル処理システムの利用廃棄。
5	エコ商品の購入	環境にやさしい商品を優先購入。
6	エコ推奨チェックリスト	毎月の定例会議にてエコ活動の推奨項目提示で啓発を行う。
7	緊急事態の対応	消防計画の設定。

2 環境活動計画の内容

2.1 節電対策

作業照度に問題が生じない範囲で、使用電灯本数を削減(30本→23本)



05年度は、事務所移転による拡張により、蛍光灯の数が約2倍となりました。節電対策として、作業に支障のない範囲で、白色蛍光管の使用本数の一部を削減し、カットワン・システムを採用しました。

カットワン・システムは、2本ある蛍光管のうち1つをダミー管にすることで、電気使用量を50%削減できます。これに反射板を組み合わせることで、蛍光管1つでも照度もあげることができます。

05年度は使用本数を30本から22本に削減しました。

写真 V-2-1 ダミー管による蛍光管数の削減(節電対策)

V. 主要な環境活動計画の内容

2 環境活動計画の内容

2.2 ゴミの分別

5種類のゴミ箱を設置、新聞・雑誌及びダンボールは別回収。



可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビンと5つのボックスを使い、分別しています。
この他に、ダンボールと吸殻、茶殻の分別も行っています。
また、ゴミの計量を行い、何のゴミがどれくらい出ているかの記録も行っています。
この取り組みによって、ゴミの再資源化に貢献することになると共に、ゴミの削減に対する意識が高まることにもつながります。

写真 V-2-2 5種類の分別用ゴミ箱(ゴミの分別)

2.3 紙類の溶解処理依頼

書類等をシュレッダーゴミとせず、そのまま溶解処理依頼し、ダンボールに再生。



個人情報等を含む管理廃棄書類等のゴミは、エコボックスを利用して処理しています。
エコボックスは、書類を入れたボックスごとそのまま溶かし、100%がダンボール原紙として再利用されます。
シュレッダーでの処理は焼却処理になり、CO2を排出しますが、エコボックスでの溶解処理は、CO2を排出せず、リサイクル率の向上にもなります。

写真 V-2-3 エコボックス(紙類の溶解処理依頼)

V. 主要な環境活動計画の内容

2 環境活動計画の内容

2.4 OA機器のリサイクル廃棄依頼

OA機器廃棄品リサイクル処理システムの利用廃棄。

OA機器(廃棄パソコン含)等を回収して解体、分別、資源リサイクル処理をおこない、マニフェスト伝票を発行するサービスを利用し廃棄を行っています。

廃棄品はリサイクル処理工場に運ばれ、手作業により分解・分別。徹底的に繰り返して資源としてリサイクルしていくため、埋め立て処分する廃棄物が殆ど発生しません。適正処理の報告としてマニフェスト(廃棄証明書)が発行されます。

2.5 エコ商品の購入

環境にやさしい商品を優先購入。

表 V-2-5 品数・金額のエコ比率(エコ商品の購入)

	05年度		
	事務用品	OA機器	全体
品数エコ比率	24%	14%	19%
金額エコ比率	69%	28%	45%

事務用品や、OA機器を購入する際には、できるだけエコ商品を選択して購入するよう心がけるとともに品数と購入金額を記録しています。エコ商品とは、商品が、環境へのダメージが少なく、環境に配慮された材料で作られたことを示す環境ラベル等がついた商品です。これらは省資源、廃棄物の削減、資源回収の促進に役立っています。

V. 主要な環境活動計画の内容

2 環境活動計画の内容

2.6 エコ推奨チェックリスト

毎月の定例会議にてエコ活動の推奨項目提示で啓発を行う。

表 V-2-6 エコ推奨リストの内容例（エコ推奨チェックリスト）

エコ推奨リスト	実施日
課題:「エコドライブ」 ■車に余計な荷物は積まない ■アイドリング・ストップを徹底する ■タイヤの空気圧が正常か調べる ■急発進・急加速をしない ■空ぶかしをしない	H18.2.6 定例会

社内外におけるエコ活動を取上げ、課題と活動項目推奨リストを定例会で提示することを始めました。このエコ推奨リストの項目確認や自己チェックから自己評価を行ったり、新たな取組課題や目標を作ったり等社内環境コミュニケーションの改善と各人啓発に取り組んでいきます。

2.7 緊急事態の対応

消防計画の設定。

表 V-2-7 訓練・教育(緊急事態の対応)

対応項目	実施日	実施内容
1)防火管理者選任届出書、消防計画届出書の提出	H17.11.22	テナントビル経由で提出
2)訓練または点検は、ビル側計画と併せて実施する。 ・初期消化訓練 6ヶ月に1度 ・通報連絡訓練 6ヶ月に1度 ・避難誘導訓練 6ヶ月に1度 ・自主・法定点検 6ヶ月に1度 ・防災教育訓練 6ヶ月に1度(採用等必要時は随時) 消防組織図および避難経路図を室内に掲示し、 消防計画の周知、火災予防・出火時の対応確認を教育する。	H17.11.18 H17.12.05	組織図、経路図掲示 定例会にて説明

VI. 環境保全活動の取組結果の評価

表 VI 環境保全活動の取組結果の評価

No	活動	取組	評価
1	節電対策	TVやコピー機などの不要電源をOFFにするといった基本事項から、カットワンシステムの導入など、積極的に取り組むことができました。	売上単位の電力使用量 →前年比94%
2	ゴミの分別	可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、茶殻、とゴミ箱を分け、分別はきちんと実行されました。この分別によって、ゴミの削減、再資源化への取組ができました。	売上単位の廃棄物総排出量 →前年比74%の削減
3	紙類の 溶解処理依 頼	05年度は、9箱(180Kg)分を回収。廃棄物排出量削減だけでなく、Co2の削減にもつながりました。	180Kg分相当の100%が ダンボールに再利用されました。
4	OA機器の リサイクル廃 棄依頼	「OA機器廃棄品リサイクル処理システム」を利用して廃棄を行いました。	関連法規に違反せず OA機器類の廃棄を実施できました。
5	エコ商品の 購入	事務用品やOA機器購入をする場合、エコ商品であるかどうかを必ずチェックし、そうでなければエコ商品のもので類似品がないかを探し、できる限りエコ商品を選択するように取り組むことができました。	エコ商品購入の割合(品数) →全体の19% エコ商品購入の割合(金額) →全体の45%
6	エコ推奨 チェックリスト	2月の定例会議にてエコ活動の推奨項目提示を行いました。06年度から本格的に取り組めます。	取組み課題の追加ができました。
7	緊急事態の 対応	訓練・防災管理教育に関し、計画を設定しました。	2005年度は、事故、緊急事態の発生はありませんでした。

VII. 環境関連法規への違反訴訟の有無

2005.03.01以前、
2005.03.01～2006.02.28の期間及び、
当該レポート作成完了(2006.05.19)時点まで、
環境活動法規への違反、訴訟はありません。
当社の事業活動で関連する
主な環境関連法規は、以下の通りです。

- ・家電製品、OA機器等のリサイクル
→**家電リサイクル法**
- ・廃棄物削減、再利用
→**資源有効利用促進法**
- ・エコ商品の購入
→**グリーン購入法**
- ・包装容器(ダンボール等)分別収集
→**包装容器リサイクル法**

各関連法規の状況は、右のURLを参照して、
定期的な確認を行っています。
また、県庁(神奈川県)や市役所(横浜市)の
情報も併せて確認を行っています。

表 VII 環境関連法規等

主な関連法規	
家電リサイクル法	www.meti.go.jp/policy/kaden_recycle/ekade00j.html
資源有効利用促進法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/02/index.html
グリーン購入法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/09/index.html
包装容器リサイクル法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/04/index.html
その他	
EA21	www.ea21.jp
消防法	www.houko.com/00/01/S23/186.HTM
神奈川県	www.pref.kanagawa.jp
横浜市	www.city.yokohama.jp/front/welcome.html

VIII. 06年度の環境目標

1) 中期目標

■売上実績当りの二酸化炭素排出量の継続低減(~1割低減)

表 VIII-1 売上当りの二酸化炭素排出量(t-co2/億円)

	04年度	05年度	06年度
Co2(t-co2/億円)	18.3	17.4	-
目標(t-co2/億円)	-	16.5~18.3	15.7~17.4
前年度比	-	95%	90%~100%
評価	-	○	-

2) 単年度目標

■各環境負荷の計画管理目標(前年度実績x事業規模比x0.9)による増加抑制・低減

表 VIII-2 各環境負荷の計画管理目標

環境負荷項目	05年度	06年度					
	実績	事業活動規模前年比	削減率	計画管理目標	実績	目標	他換算値
Co2	19.98 (t-co2)	1.29 売上計画比	0.9	23.20 (t-co2)	- (t-co2)	<23.20 (t-co2)	-
電力	390.24 (KMJ)	1.29 売上計画比	0.9	453.07 (KMJ)	- (KMJ)	<453.07 (KMJ)	<46,090 (Kwh)
ガソリン	46.91 (KMJ)	1.00 車台数比	1.0	46.91 (KMJ)	- (KMJ)	<46.91 (KMJ)	<1,355 (L)
廃棄物	843.00 (Kg)	前年移転時廃棄分除く		320.00 (Kg)	- (Kg)	<320.00 (Kg)	-

IX. 06年度の環境活動計画

06年度は、下表の環境活動を中心に更なる改善に取り組みます。

表 IX 06年度の環境活動計画

No	環境活動	06年度環境活動計画
1	節電対策	照明設備では、反射板をより大きなものに変え、さらに電灯を通常の白色蛍光管よりも10%から20%明るい三波長管に切り替える予定です。 この対策により、作業に支障のない照度を確保しながら、電灯数を更に削減します。
2	ゴミの分別	ゴミ分別を実行継続していきます。また、不要な雑誌や新聞等は、纏めて回収し、紙ゴミの排出量を削減できるよう取り組みます。
3	紙類の溶解処理依頼	エコボックスを積極的に利用し、シュレッダーゴミの低減に取り組みます。
4	OA機器のリサイクル廃棄依頼	OA機器廃棄の場合には、リサイクル処理システムを利用します。
5	エコ商品の購入	エコ商品の購入だけでなく、物を大切に使い、資源の無駄を出さないよう取り組みます。
6	エコ推奨チェックリスト	月次レポートにエコ推奨リストと一緒に掲載し、社員全員が一ヶ月間の自分自身の取り組みをチェックするという活動を計画しています。 このエコ推奨リストの結果からできることを考え、改善していくことや、新たな課題、目標を作り、次月に達成できるよう、積極的に取り組んでいきます。
7	緊急事態の対応	緊急事態に備えた点検、訓練を怠らないようにしていきます。